



第 68 回 澁澤賞

候補者推薦のお願い

本賞は、わが国の電気保安行政の礎を築いた澁澤元治博士の崇高な志を受け継ぎ、広く電気保安確保等にすぐれた業績をあげた方々に毎年贈られており、権威ある賞として各界より認められています。

今回、第68回澁澤賞では、国・公共団体や企業内における女性の登用が推進されている時勢に鑑み、前回に引続き、さまざまな組織で活躍されている技術職等の女性を候補者として特に募集いたします。

関係の皆様には、候補者を多数ご推薦くださいますようお願いいたします。

令和5年5月

澁澤元治博士文化功労賞受賞記念事業委員会

一般社団法人 日本電気協会



（澁澤元治博士は「和^{やわらぎ}を以って貴しと為す」を座右の銘としていました。）

澁澤賞は、澁澤元治博士が昭和30年に文化功労者として表彰を受けられた栄誉を記念するため、昭和31年に設けられたものです。

博士は、当時の通信省において、草創期の電力行政に貢献され、なかでも電気工作物規程（現在の電気設備技術基準）の制定に心血を注がれ、わが国の電気保安行政の礎を築かれました。

また、教育者として、東京帝国大学の工学部教授、工学部長を歴任し、電気工学の発展につくされ、後に名古屋帝国大学の初代総長を務められました。

表彰規定（令和 5 年度）

1. 候補者の推薦

A. 功績ならびに候補者の資格

本賞は、電気の保安、信頼度の向上に関する様々な分野で顕著な功績をあげた方、長年にわたり地道に業績をあげた方を広く顕彰する制度である。

候補者の資格として、下記(1)～(5)のいずれかに該当すること。

(1) 発明・工夫、設計・施工

電気の保安、信頼度の向上について、有効なシステム、機械器具、工具、工法、その他施設等の発明・工夫、設計・施工を行い、その実用化後 3 年以上を経過してその有効性を実証した方。

(2) 電気技術規格・基準の制改定

電気技術規格・基準関係の委員会の委員等として、技術規格・基準の制改定を 10 年以上にわたり行い、電気の保安、信頼度向上について顕著な功績をあげた方。ただし、年数は通算とする。

注)「電気技術規格・基準関係の委員会」とは、電気技術や保安について独自の規格・基準を持つ団体等(電気、電力、原子力、エネルギー、電機、機械、通信、電線、電設、土木、建設、消防、鉄道、標準、規格、品質保証等に関係する機関、研究所等)が運営する委員会組織をいう。

(3) 学術研究

大学、大学院、研究所等に在籍し、電気の保安、信頼度向上のための調査、研究、及びそのサポート等を 20 年以上にわたり行い、顕著な功績をあげた方。ただし、年数は通算とする。

注)「大学、大学院、研究所等に在籍」とは、大学、大学院、企業等の研究所又はそれに相当する機関で、20 年以上にわたり電気の保安、信頼度向上のための調査、研究、及びそのサポートに従事した大学・大学院の教官、研究員、技術員等。研究所等の職員については、前記に相当する地位の方をいう。

(4) 人材育成

学校・企業の研修所等の教育機関での教育・指導^①、通信教育の添削指導^②、試験実施機関での問題作成^③、専門誌等への執筆活動^④等を通じて電気の保安、信頼度の向上のため電気関係の資格取得者^⑤を輩出させ、あるいは技術継承をはかる等、人材の育成を 20 年以上にわたり行い、顕著な功績をあげた方。ただし、年数は通算とする。

注) ①「学校・企業の研修所等の教育機関での教育・指導」とは、高等専門学校、大学、大学院、又は電力会社・電機メーカーならびにその協力企業等の技術研修施設・技術教育機関等において教育・指導に従事し、技術継承や人材育成に貢献したことをいう。

②「通信教育の添削指導」とは、国が認定した通信講座の添削指導に従事したことをいう。

③「試験実施機関での問題作成」とは、電気主任技術者、電気工事士資格の試験実施団体、電気工事施工管理技士資格の試験実施団体等で試験問題の作成に従事したことをいう。

④「専門誌等への執筆活動」とは、出版社又は電気関係の団体等が発行する電気関係専門誌への記事を執筆したことをいう。

⑤「電気関係の資格取得者」とは、電気設備の工事、維持、運用に関する保安に携わる資格として、電気関係の主任技術者（電気主任技術者、ダム水路主任技術者、ボイラー・タービン主任技術者）、電気工事士、電気工事施工管理技士等の資格を取得した者をいう。

(5) 長年にわたる電気保安への功労

(1)～(4)項以外、あるいは(2)～(4)項にまたがり、電気の保安の確保、信頼度の向上について長年にわたり顕著な功績をあげ、勤続または就業年数 20 年以上の方。ただし、年数は通算とする。

B. 候補者数

候補者は1件につき1名とする。ただし、特例として1件につき2名以上の候補者を推薦する場合は、グループ表彰とする。(なお、グループの場合は5名以内とし、グループ名および代表者名を必ず明記すること。)

C. 推薦者

候補者は、それぞれの所属会社または所属団体の推薦によること。

D. その他

すでに国より同種の表彰(電気保安功労者経済産業大臣表彰等)を受けている方については、推薦の対象外とする。

2. 推薦書

裏面の「推薦書」及び「参考資料」作成上の注意点をもとに作成、提出のこと。

3. 推薦の締切

令和5年7月3日(月)必着のこと。

4. 推薦書送付先 ※推薦書の提出方法が変更になります。

推薦会社・団体の所在する地区の(一社)日本電気協会支部にメールで電子データ(PDF)を提出すること。

北海道支部	〒060-0041	札幌市中央区大通東3-2	TEL(011)221-2759	shibusawa1@denki.or.jp
東北支部	〒980-0021	仙台市青葉区中央2-9-10	TEL(022)222-5577	shibusawa2@denki.or.jp
関東支部	〒100-0006	東京都千代田区有楽町1-7-1	TEL(03)3213-1757	shibusawa3@denki.or.jp
中部支部	〒461-8570	名古屋市東区東桜2-13-30	TEL(052)934-7215	shibusawa4@denki.or.jp
北陸支部	〒930-0858	富山市牛島町13-15	TEL(076)442-1733	shibusawa5@denki.or.jp
関西支部	〒530-0004	大阪市北区堂島浜2-1-25	TEL(06)6341-5096	shibusawa6@denki.or.jp
中国支部	〒730-0041	広島市中区小町4-33	TEL(082)243-4237	shibusawa7@denki.or.jp
四国支部	〒760-0033	高松市丸の内2-5	TEL(087)822-6161	shibusawa8@denki.or.jp
九州支部	〒810-0004	福岡市中央区渡辺通2-1-82	TEL(092)741-3606	shibusawa9@denki.or.jp
沖縄支部	〒900-0029	那覇市旭町114-4	TEL(098)862-0654	shibusawa10@denki.or.jp

5. 受賞者選考

(敬称略)

●選考委員会

委員長 東京電機大学大学院 工学研究科
電気電子工学専攻 特別専任教授
日高 邦彦
委員 経済産業省 大臣官房審議官
(産業保安担当) 笹路 健
〃 (一財)発電設備技術検査協会
専務理事 中西 宏典
〃 電気事業連合会
副会長 佐々木 敏春
〃 (一社)日本電気協会
専務理事 古澤 宏

●受賞者選考委員会

委員長 (一財)発電設備技術検査協会 専務理事 中西 宏典

委員 経済産業省 商務情報政策局 産業保安グループ	委員 (一財)電力中央研究所
〃 総務省消防庁 消防大学校 消防研究センター	〃 (一社)日本鉄道

(推薦書様式) ※本フォーマットは、(一社)日本電気協会 HP よりダウンロードできます。

湊澤賞候補者 推薦書

推薦区分1～5の別					
1	2	3	4	5	
候補者	(ふりがな) 氏 名	※グループの場合、グループ名および代表者名 (例：〇〇の開発グループ 代表者〇〇他〇名)		生 年 月 日	年 月 日生
	自宅住所	〒			
	勤務先 および所在地	〒		(電 話)	(メールアドレス)
	略 歴				
	賞 罰				
	推薦理由	(概 要) 概要は、35文字×25行以内で簡潔に作成して下さい。 (詳細な説明は、参考資料をご活用下さい。)			
推薦会社・団体名	〒				
(所在地・電話) (メールアドレス) (連絡担当者)	(電 話)	(メールアドレス)		氏 名	所 属

○「推薦書」及び「参考資料」作成上の注意点

- 「推薦書」は、A4判サイズで本様式を基に作成して下さい。
- 「推薦区分1～5の別」欄は、表記表彰規定の1. 候補者A欄(1)～(5)のいずれか推薦する区分に応じて1つを○で囲んで下さい。
- 「候補者」の欄は、グループの場合には代表者を記入し、他の候補者は別紙に記入の上、添付して下さい。
- 「推薦理由」の欄／「参考資料」について
 - (1)の場合：「概要」に 対象となるシステム、機器・設備等の開発年度、構造、工法、性能、特長、生産台数等を記入し、「参考資料」には ①有効性 ②実用性 ③独自性 の項目に分類し、具体的な実績・データを基に記入して下さい。
 - (2)の場合：「概要」に 対象となる規格・基準の制改定の内容、実働年数を記入し、「参考資料」には ①規格の意義 ②委員会委員、講師等の実績 ③表彰受賞等の実績 の項目に分類し、具体的な実績・データを基に記入して下さい。
 - (3)の場合：「概要」に 調査、研究及びそのサポート等を行った学術研究の内容、実働年数を記入し、「参考資料」には ①実業への貢献 ②委員会委員、講師等の実績 ③表彰受賞等の実績 の項目に分類し、具体的な実績・データを基に記入して下さい。
 - (4)の場合：「概要」に 人材育成や技術継承に携わった実務の内容、実働年数を記入し、「参考資料」には ①技術継承、育成内容の有益性 ②講師等の実績 ③表彰受賞等の実績 の項目に分類し、具体的な実績・データを基に記入して下さい。
 - (5)の場合：「概要」に 上記(1)～(4)以外、あるいは(2)～(4)にまたがり電気保安確保に係った実務の内容、実働年数を記入し、「参考資料」には ①保安の確保に有効な実績 ②社内外における教育・育成活動の実績 ③表彰受賞等の実績 の項目に分類し、具体的な実績・データを基に記入して下さい。

なお、参考資料は、A4判サイズで作成し、別途添付して下さい。(ただし、推薦書を含めて、片面20枚以内に収めて下さい。)

- 推薦書及び参考資料は、PDFでご提出下さい。

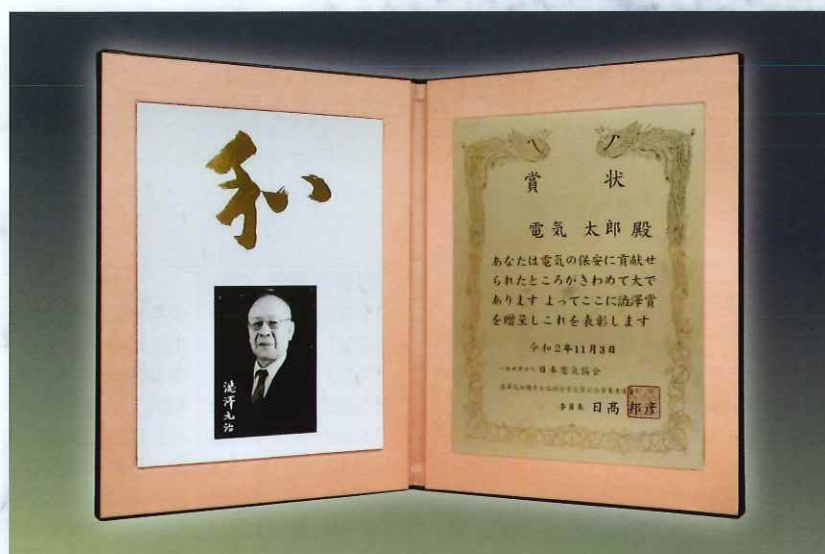
- 問合せ先 (一社)日本電気協会 湊澤委員会事務局 〒100-0006 千代田区有楽町1-7-1 TEL (03) 3216-0559 kouho@denki.or.jp

※お預かりしました個人情報については、湊澤賞に関連する事項のみに使用いたします。

※今回より、推薦書の提出方法が変更になります。

澁澤賞

澁澤元治博士文化功労賞受賞記念事業委員会
一般社団法人 日本電気協会



澁澤賞について

澁澤元治博士は、明治39年に通信省に入られてから18年間にわたる在任中、電気試験所第1部長、同第3部長、電気局技術課長を歴任されました。

この間、「電気事業法」および現在の「電気設備技術基準」の前身である「電気工作物規程」の制定、また電気主任技術者制度の改革に尽力されるなど、電気保安体制の確立に大きな功績を残されました。

一方、電気工学の教育分野においても、大正7年に東京帝国大学工学部電気工学科の講師、同教授、工学部長を歴任し、後に名古屋帝国大学の初代総長として同大学の創設に奔走されるなど、28年間にわたり電気工学の教育に半生を捧げられました。

昭和30年11月3日、長年にわたり我が国の電気事業に貢献された功績により文化功労者として名誉ある表彰をお受けになりました。

この博士の栄誉をお祝いするとともに、永く記念するために、有志の方々により澁澤元治博士文化功労賞受賞記念事業委員会（略称：澁澤委員会）が設立され、昭和31年から澁澤賞表彰が行われるようになりました。

現在は、電気の保安について、有効なシステム、機器の発明工夫・設計施工、電気に関する技術規格・基準の制改定、学術研究、人材育成ならびに長年にわたり電気保安の確保に優れた貢献をされた方に澁澤賞を贈呈しております。

受賞者の発表は、毎年11月3日の文化の日に行われ、同月下旬に挙行される贈呈式において、賞状を受賞者にお贈りしております。



しづさわもとじ

工学博士
正二位勲一等瑞宝章
日本学士院会員

澁澤元治の生涯

澁澤元治博士は、明治から大正・昭和にわたる日本の電気事業の創成期にあって、最も指導的な役割を果たし、その基礎を築いた最大の功労者と言えます。

「日本資本主義の父」と称えられる澁澤栄一の甥にあたる澁澤元治を知る人はまだまだ少数です。しかし、現代日本の産業に及ぼしている実際的な貢献度から言えば、栄一に決して勝るとも劣りません。むしろ、澁澤元治が追求した「電力立国」の理念は、時代とともにその輝きを増してきています。

明治9年10月25日、澁澤元治は埼玉県血洗島村（現深谷市）の農家に生まれました。母の貞子は澁澤栄一の末妹であり、元治は栄一の甥にあたります。幼少時代から優秀だった元治は、高等小学校を卒業すると、父市郎の反対を押し切って上京し、明治30年に東京帝国大学電気工学科に進学しました。

明治35年5月、元治は伯父の澁澤栄一に連れられて海外に渡航し、欧米先進国で電気に関する技術を修得しました。

明治39年、日本に帰国した元治は、通信省に入って通信技師となり、創成期にあった電気事業の育成に尽力しました。明治44年に制定された電気事業法と電気工作物規程の作成にあたり、元治は主査を担っています。

大正13年、通信省の技術課長を辞した元治は、東京帝国大学工学部の専任教授に就任しました。昭和4年には、同大学の工学部長に選ばれています。

昭和12年、東京帝国大学を退いた元治は、新たに設立された名古屋帝国大学の初代総長に就任しました。昭和15年の開学にあたり、澁澤元治総長は、座右の銘である「以和為貴」（「和を以て貴しと為す」）を大学の標語として掲げました。

終戦後の昭和21年1月、名古屋大学総長を辞任して妻とともに故郷血洗島に帰った元治は、昭和30年に、電気関係では初の文化功労者として表彰されました。これを記念して、翌昭和31年に「澁澤賞」が創設されました。

昭和50年、元治は99歳で永眠しました。同じ家郷を出た澁澤栄一と元治の二人は、それぞれがわが国の経済立国と電力立国を担ったのです。

澁澤元治年譜

西暦	元号	年齢	経歴
1876	明 9	0	誕生（10月25日）
1881	明14	4	小学校入学
1887	明20	10	榛沢高等小学校第3年編入
1889	明22	12	同校卒業 東京神田駿河台成立学舎入学 東京府立尋常中学校第2学年編入
1893	明26	17	同校卒業
1894	明27	18	第一高等学校農科入学 第3学年時 電気工学科に転科
1897	明30	21	同校卒業 東京帝国大学電気工学科入学
1900	明33	24	東京帝国大学電気工学科卒業 中野鉄道大隊に入隊
1901	明34	25	古河鋳業会社に入社
1902	明35	26	伯父 澁澤栄一とともに海外視察 独、シーメンス社工場の実習生となる
1903	明36	27	スイス・チューリッヒ工科大学聴講生
1904	明37	28	渡米、セントルイス万国博覧会審査員 GE社に実習生として入社
1906	明39	30	帰国